

『子ども主体の学び』をデザインする

大津市教育センター所長 富永 幸彦

皆さんは、まだ「チョーク&トーク」で一方向的に教え込むような授業をしていないでしょうか。

教師がすべて解説したり「正解」に誘導したりする授業からの脱却が強く求められていることは今さら言うまでもないと思うのですが、学校によっては授業改善が遅々として進んでいない印象を受けているのは私だけでしょうか。

そもそも、学んだ知識・技能を正確に再生するような能力は、これからの時代、さほど意味を持ちません。そうした役割の多くはAIが担うことになるからです。

社会に出れば、むしろ正解のない問題だらけです。ですから、自分なりに熟考したり、みんなで話し合ったりして、その時々最適解を導き出していかなければなりません。私は、次代を担う子どもたちが、その訓練をするところが「学校」だと思っています。ましてや、ますます予測不能で変化の激しい時代をこれから生きていく子どもたちには、そういう能力が一層求められるでしょう。だからこそ、自分で考えること、さらに対話すること、つまり「主体的・対話的で深い学び」を子どもたちがどれだけ積み上げていくかが重要になるのです。

元来、子どもは「学びたい」欲求が非常に強いと言われます。「なぜ?」「どうして?」と質問攻めに遭うことは少なくありません。そこで、教師が答えを教えるか、自分で調べさせたり友達と相談させたりするか、極めて単純に言えば、前者が教師主導、後者が子ども主体ということでしょう。子どもたちの知的好奇心に火をつけるような働きかけ(≒導入)は、教師にとって大事なスキルです。しかし、子どもたち一人一人が自らの興味関心に基づいて課題を設定し、自分に適した進度で学びを進め、ふりかえりを通して学習の成果や自らの変容を自覚することで次なる意欲につながる…そんなサイクルを生み出す『子ども主体の学び』をデザインすることが、現在の教師には求められています。

学校では、一つの教室の中で本当に多様な子どもたちが一緒に生活しています。ですから、授業に子どもたちが合わせるのではなく、子どもたちの多様性に合わせた授業づくりに転換する意識を強く持たなければなりません。そして、ファシリテーターとしての教師の心構えが必要です。

実際、子どもたちが自力で編み出した答えの方がずっと深いと思知らされることがあります。子どもの素朴な疑問や純粋な感性、自由な発想から教師が学ぶこともたくさんあります。教師が子どもの力を信じることで、子どもは自分を信じるできるようになり、学ぶ意欲が内側から湧き上がってくることもあるでしょう。そうして、子どもたちと教師が互いに学び合い、尊重し合う関係性を築くことが、授業中も子どもたちの笑顔が輝き、「明日も行きたい!」とワクワクする学校づくりにつながるのではないのでしょうか。

では、どんな授業をどのようにつくっていけばいいのか、教育センターとしても、具体的な提案ができるよう探究し、研修等の機会を通じて発信していきたいと考えています。

学校の課題は様々です。しかし、どの学校においても課題解決のためには「よりよい授業づくり」が欠かせないでしょう。各学校におかれても、校内研究のさらなる充実を図るなどして、授業改善に努めていただきますようよろしくお願いいたします。

※私は、幼稚園におかれては『子ども主体の学び』が既に実践されていると思っています。ですから、あえて上記のような表現にしています。もし、幼稚園に置き換えるなら、「学校」を「園」、「授業」を「保育」と読み替えてください。

研修事業

これまでに実施しました研修の内容や
受講者の学びの姿を紹介します。

初任者研修（小・中）〔第1回〕〔第2回〕 51名

4月1日に辞令交付式を終え、今年度新たに、小学校34名、中学校17名の大津の教育を支える仲間を迎えました。

初任者研修では、集合研修であることを生かし、初任者同士の繋がりを深められるように、ペアやグループで交流する時間を多く設定しています。また、研修の始まりには「学びに向かう時間」として、「今日はどのようなことを学びたいか」「日頃悩んでいて聞きたいことはどのようなことか」などを交流したり、研修の終わりには、振り返りとして、学んだことを他者にアウトプットしたりするなど、主体的な学びになることを大切にしながら研修を実施しています。



辞令交付式

【受講者の声】

・個別懇談に向けて、基本五原則の『あいさつ・表情・身だしなみ・立居振舞・話し方』を改めて見直し、保護者の方に安心していただけるような印象を残せるようにしていきたいと思いました。また、電話応対に不安があったため、本日の経験を通して学んだメモの取り方や応対のポイントを意識していきます。(社会人としてのマナーと接遇)



名刺交換の様子

教職2年次研修（小・中）〔第1回〕 60名

「生徒指導力の向上といじめ問題への対応」をテーマに研修を実施しました。生徒指導提要进行の重要性や、「発達支持的生徒指導」「生徒指導の最たるは『授業』である」といった、生徒指導を行ううえで大切な視点を学びました。

【受講者の声】

・これまでの生徒指導において「早期発見」を意識していましたが、「未然防止」が大切であることを学びました。子どもたちの自己指導力を向上させることを日常的に意識したいと思います。

・生徒指導の最たるは「授業」ということを、意識したいと思います。子どもたちが最も多くの時間を過ごす授業の中で、互いに認め合い、共に学び合える環境を作ることができているか、もう一度確認します。

特別支援学級新担任研修 58名

初めて特別支援学級を担当する教員を対象に研修を実施しました。特別支援学級担任の役割と学級経営、学級づくりや授業づくりについて学びました。他校の同じ種別の先生と日々の悩みを話す時間を多く確保することで、不安を軽減できた先生も多くおられました。

【受講者の声】

・初めての特別支援学級の担任で、不安ばかりだったので、実際に見本を交えてわかりやすく教えてくださり安心しました。同じ悩みをもつ仲間がいると思うと心強くなりました。

・現在のことだけでなく、将来を考えて必要な力をつけるという視点をもつことができました。



講義の様子

中堅教諭等資質向上研修（小・中）〔第1回〕 44名 [同時双方向型オンライン研修]

法定研修として、教育センター所長より「中堅教諭等資質向上研修」の意義についての講話、さらに教職員室の主任指導主事より「教職員の服務と関係法規」をあらためて学び直す研修を実施しました。事前に資料を配付しておき、目標をもって参加し、自分で、またはグループで考える時間を多く取ることで、オンラインでも主体的に学べるように計画しました。過去の事例を自分事として考え、共有することでさらに考えを深め、教育公務員としての職責を再確認することができました。

【受講者の声】

- ・中堅教諭として若手の模範となり、管理職ともつながる立場として、絶対にコンプライアンス違反を起こしてはならないと強く感じました。また、他校との交流により、様々な場面で不祥事の可能性があるかと危機感をもちました。自分だけでなく、学校全体に目を向けていきます。
- ・「教師こそが最高の教育環境である」ということは、逆に不祥事を起こすと、教師ひとりの行動によって、子どもたちの成長や発達に大きな悪影響を与えるということを、常に心に留めておきたいと思えます。

教職員のよりよい学びとなるよう、引き続きご協力の程よろしく願いいたします。

教科等領域別 研究会より

教科等領域別研究会「開催情報の確認方法」と 「作成教材の収納場所」が変更になります！！

大津市の教職員向け WEB ページ「OIE-NET」が今年度途中で使用できなくなることに伴い、次の二点が変わります。 ※OIE-NET が使用できる期間中は、従来どおり更新を行います。

① 開催予定は「校支援」から確認できるようになります。

開催通知や校支援の行事計画をご確認のうえ、積極的に研究会へご参加ください。初任から5年次までの先生は、研究会への参加が選択研修の一つとなっています。

② 教科等領域別研究会で行われる公開授業等の指導案は、「Teams」にアップロードしていきます。

部会で十分に協議された指導案は、いずれも学びの多い内容となっています。日々の授業実践の参考として、ぜひご利用ください。



名前	更新日時	更新者	x
14 小学校家庭科部会	2026/04/15 15:00		
15 小学校体育科部会	2026/04/15 15:01		
16 小学校外国語活動・外国語科部会	2026/04/15 15:02		
17 小学校道徳科部会	2026/04/15 15:03		

【変更後のイメージ】

幼児教育の 視点から

五感を通した直接体験の大切さ

5月の中旬、膳所幼稚園の5歳児の子どもたちが、センターの茶畑にお茶摘みにやってきました。生涯学習センターの施設ボランティア チャオさんから、「小さな赤ちゃんの葉っぱがおいしいお茶になるよ。」と教えていただき、お茶摘みを始めた子どもたち。「どれが赤ちゃんかな？」と、目を輝かせながら「プチって採れた！」と指先で摘み取る感覚を味わっていました。

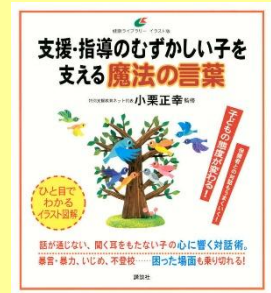
園に帰ってからは、お茶の葉っぱを手でもんで「いい匂い～」と香りを楽しんだり、お茶の実が種だと知って、「お茶の木できるかな…」と園庭に植えたりしたそうです。

バーチャルな時代を生きる子どもたちだからこそ、五感を通した体験を大切にしたいと思えます。

『支援・指導のむずかしい子を支える魔法の言葉』

反抗的な態度や言葉、なげやりな様子、一方的な主張の繰り返しなど、「困ったふるまい」への支援や指導に行き詰った場面を乗り切る対話術が、イラスト図解でわかりやすく記されています。そして、投げかける言葉しだいで相手の反応が変わっていく実践から、子どもの心に響く言い聞かせ方のエッセンスがちりばめられています。

「困った子」を「困っている子」と捉え、「ユニバーサルデザイン」の考え方から、「誰にでも伝わる・誰もがやる気を持ちやすくなる言葉かけ」で、自然にやりとりを生み出す言葉の使い方を工夫することの大切さを、改めて感じるおすすめの一冊です。



小栗 正幸 監修
講談社 発行

小栗正幸先生には、7月24日(金)に実施予定の「特別支援教育研修〔第2回〕」において、講師としてお越しいたできます。直接お話が聞ける貴重な機会です。ぜひご参加ください!

※教育センターでは、授業づくりや園児・児童・生徒支援に役立つ図書を貸し出しています。研修等で来所の際、ぜひご覧ください。

教科書展示会 開催のご案内

日時 : 6月2日(火)～6月30日(火) 9:00～17:00

※ただし、期間中の土・日・月曜日は除く。

場所 : 生涯学習センター 4階 第4研修室



小・中学校や高等学校の教科書、特別支援学級で使える図書等を展示しています。

<来館時の注意>

『大津市生涯学習センター』はたくさんの市民の方が利用される複合施設です。

館内の施設は、教職員の研修や研究会だけでなく、

一般市民のみなさんの生涯学習活動等に多く利用されています。

来館の際は公共交通機関を利用し、公共の場でのマナーを守ってください。